

獣医学教育モデルコアカリキュラムの目指すもの
臨床獣医学分野コアカリキュラム

○佐藤れえ子 岩手大学農学部

獣医学を取り巻く環境の急激な変化は、臨床獣医学分野においても様々な教育上の問題を惹起してきた。家庭で飼育される小動物に対する国民意識の急速な変化と、分子生物学の進歩によって高度獣医療が加速的に発展を遂げていることから、大学で教授すべき臨床知識と診断・治療技術は高度化と多様化の一途をたどっている。一方で産業動物に関する臨床教育・実習内容は、都市にある大学と地方にある大学との間に差が生じてきている。また、産業動物教育では動物種の偏りや、群管理に関する教育が行われている大学とそうでない大学とがあり、今後早急な改善が必要と考えられている。このような状況の中で実施されたシラバス調査による臨床獣医学教育の全国的な実態調査では、改めて大学間の差が浮き彫りとなった。

したがって、今後の臨床獣医学教育の改善に向けては、全国の全ての大学で共通的に最低限実施する必要がある教育内容をコアカリキュラムとしてまとめ、教育の質の保証を行うことが重要となってくる。その際、共通的な最低限のラインを、低く設定しないことが肝要である。また、小動物の獣医療に関する項目は高度に専門化してきているため、このニーズに応えつつ国際水準を満たす内容であること。産業動物に関しては動物種を明記して教育が偏らなくする工夫が必要であり、群管理も取り入れた教育内容であることが望まれる。今回のコアカリキュラムの作成に当たってはこのような点をふまえ、それぞれの専門分野から、なるべく多くの方に臨床獣医学分野研究班の委員としてコアカリキュラム作りに参加して頂いた。また、委員の選出に当たっては、小動物分野と産業動物分野の両方がカバーできる人選を目指した。この発表では、臨床獣医学分野のコアカリキュラム作成の過程と、その成果について簡単に説明したい。